

FICオープンセミナー報告

法政大学, 国際文化学部

(出版者 / Publisher)

法政大学国際文化学部

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

Journal of Intercultural Communication / 異文化. 論文編

(巻 / Volume)

20

(開始ページ / Start Page)

228

(終了ページ / End Page)

241

(発行年 / Year)

2019-04-01

10e journée de découverte de la francophonie 第10回 フランコフォニーを発見しよう！

執筆者 廣松 勲

去る12月8日、外濠校舎S406にて、「第10回 フランコフォニーを発見しよう！」が開催された。参加者を含めると聴衆は、優に100名を超える人数であった。本大会はこれまでに首都圏の主要大学において実施されてきた催し物であり、全国の高校や大学のフランス語学習者が集い、フランコフォニー（フランス語圏）諸国の言語・文化・社会に関するクイズやルポルタージュを発表（コンクール形式）するというものである。今回は10回目という記念すべき年として、偶然の巡り合わせもあり、創設期からフランスとの関わりの深い法政大学が開催校となり、また国際文化学部は主催者の一員として準備・運営に関わった。

主な参加機関・団体は、以下の通りである。主催者として「日本におけるフランコフォニー推進委員会」、「日本フランス語教育学会」、「法政大学国際文化学部」、協力者として「フランコフォニー国際機関」、「在日フランス大使館」、「アンスティテュ・フランセ日本」、「ベルギー大使館」が参加した。また、主な参加校としては、高校ではアサンプション国際高等学校（大阪）、大学では青山学院大学、お茶の水女子大学、学習院大学、慶應義塾大学、上智大学、筑波大学、東京大学、明治学院大学であった。さらに、聴衆の中にはチュニジア大使館、ジブチ大使館、ケベック州政府在日事務所などの関係者の方々も見られた。

本会は、以下のような流れで進行した。まずは、スイス大使のジャン＝フランソワ・パロズ氏（日本におけるフランコフォニー推進会議議長）による開会の挨拶から始まり、続いてJICAの高橋歩氏から「国際協力における知られざるフランコフォニーの価値」と題した講演が行われた。コンゴ民主共和国とマダガスカルにおける自身の活動を紹介しながら、フランコフォニー社会における国際協力の在り方について紹介・説明がなされた。

次に、国際文化学部におけるフランス語教育を中心とした活動紹介が行われた。まずは廣松が学部創設の経緯や4年間のカリキュラムなどを概説した後、SAプログラムや派遣留学、そしてフランス語カフェについて、ジョルディ先生より詳細に説明がなされた。続いて、SAフランスについては学部3年の大森知紗さんより、派遣留学（リヨン第3大学）については学部4年の宮下晃実さんより、自らの経験を含めて簡単に説明がなされた。大森さん、宮下さんともに限られた時間の中で、適切な分量・速度で制度や体験を紹介してくれたことで、聴衆にもより分かり易い紹介になったと思われる。ここに改めて御礼を申し上げておきたい。

休憩後、本会の中心部に当たる「フランコフォニーに関するクイズ」と「日本におけるフランコフォニーに関するルポルタージュ」が、それぞれの高校・大学からフランス語によって発表された。まず、クイズについては、各校が選択したフランコフォニー国・地域・

社会における言語文化について、聴衆に向けて様々なクイズが出された（のべ5校が発表）。ルポルタージュについても、各校が選択した国・地域・社会について、特に日本との関わりにおいて興味深い発表がなされた。インタビュー結果を交えた発表が多くを占めていたが、中でも唯一の参加高校であったアサンプション国際高等学校による「Monsieur Bigot et les baguettes au Japon（ビゴさんと日本のバゲット）」は非常に興味深く、また中等教育段階におけるフランス語教育の一つの成果を目の当たりにすることができた。さらに、大学生たちの発表については、学部1年生から4年生まで様々な構成のグループで発表がなされた。複数人で分担して発表することになるため、フランス語能力のばらつきはあるものの、どの学生もフランス語でコミュニケーションする強い意志を感じ取ることのできる素晴らしいものであった（のべ7校が発表で、1校はキャンセル）。

特にルポルタージュについては、発表直後にフランス語（時に日本語）での質疑応答がなされた。学生たちは苦心しながらも質疑に応じていたが、このような瞬発力の求められるコミュニケーションを外国語で行うことの重要性を改めて認識させられた。

最後に、賞の発表が行われ、それぞれの学校に何らかの賞が与えられた。準備段階から多大な労力を必要とする様々な発表を立て続けに聞くと、このように全員受賞となることには全く疑問の余地はなかった。

閉会の辞として、京都大学の西山教行先生（日本フランス語教育学会会長）およびフランス大使館のマクセヌ・ロバン氏より、それぞれ言葉を頂いた。

凡そ5時間に及ぶ長丁場の企画であったが、その企画・運営全体において、滞りなく全日程を終えることができた。学校、生徒・学生、教員、そして各種機関の関係者たちが集い、互いに発表や関心テーマについて議論する機会は、他では味わえない貴重なものであると改めて認識した。いずれ本学のフランス語学習者たちにも、積極的に参加を呼び掛けてみたいと思う。

以上

日時：2018年12月8日（土）13：30～18：30

場所：法政大学市ヶ谷キャンパス・外濠校舎 S406 教室

本学部参加者（敬称略）：

フィリップ・ジョルディ、廣松勲、宮下晃実（SA フランス／リヨン第3大学、4年）、
大森知紗（SA フランス／派遣留学予定、3年）



Journée de découverte de la francophonie

2018年12月8日(土) 13:30~18:10

法政大学 市ヶ谷キャンパス

外濠校舎 S406教室

主催
日本におけるフランコフォニー推進会議
日本フランス語教育学会
法政大学国際文化学部

協力
フランコフォニー国際機関 (Organisation
Internationale de la Francophonie)
在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本
ベルギー大使館

後援
フランス語教育振興協会 APEF
朝日出版社
白水社
三省堂
駿河台出版社
第三書房
三修社
アシェット・ジャボン
グロリア ツアーズ
TV5MONDE
franc-parler.jp



第10回フランコフォニーを発見しよう！

講演 高橋 歩

国際協力機構 (JICA) 産業開発・公共政策部
「国際協力における知られざるフランコフォニーの価値」 (日本語)

法政大学国際文化学部の活動紹介

日本におけるフランコフォニーに関するルポルタージュ
アセンブション国際中学校高等学校・青山学院大学・
学習院大学・慶應義塾大学・上智大学・東京大学・明治大学

フランコフォニーに関するクイズ

お茶の水女子大学・上智大学・筑波大学・明治学院大学

